

# 組合だより

267号

2023年

1月23日

発行所 岡山大学職員組合

〒700-8530 岡山市北区津島中 2-1-1

電話 086-252-1111 (代)

7168 (内線)

直通 TEL&FAX 086-252-4148

ホームページ <https://odunion.jp>

メールアドレス [info@odunion.jp](mailto:info@odunion.jp)

目次： 1~2：新年のご挨拶 3~4：学長選の Q&A 4~5：全大教単組代表者会議報告 5：全大教より声明  
6：単組だより（理）（法文経）（教育） 7：旅日記 8：野菜三昧

## 新年のご挨拶

執行委員長 荻野 勝



皆さん、明けましておめでとうございます。今回の年末年始は、政府からの行動制限に関する要請がありませんでした。今後のコロナ感染の拡大は心配ですが、きっと故郷に帰省して久しぶりにご家族や旧友に会われた方も多いのではないのでしょうか。組合合唱団も、昨年 12 月から久しぶりに活動を再開しました。そこで、今回は新年のご挨拶に替えて、私の合唱団の「個人的な」思い出話を書かせて頂きます。お時間がありましたら、お読みください。（「個人的な」思い出話なので、事実を多少誇大解釈したところもあるかもしれません。）



### 【創成期の思い出】

組合合唱団は、今から 20 年ほど前の 3 月頃に結成された。当初の目的は、その年の 9 月に、岡山大学職員組合の本部である全国大学高専教職員組合（全大教）が主催する教職員教育研究集会が岡山大学で開催されることとなり、遠方から岡山までは来る来て下さる方々を合唱でもてなそう、というものであった。それが、教育研究集会が終わっても合唱団は存続し、「アメイジンググレイスを歌う会」という名称で今も残っているのである。（指導は、教育学部に当時おられた奥忍先生を指導教官としておられた加藤晴子先生にお願いし、会場は教育学部の音楽棟の講堂のようなところを奥先生のご厚意に甘えて使わせていただいた。）

さて、2 年ほど前に、コロナ感染のために活動停止した頃はメンバーが 15 名ほどであった合唱団も、開始早々の頃は 5 名足らずであった。少ない時は参加者が 3 名という時もあった。私自身、金曜日の夕方は、いつもより少し早く帰宅して、

お酒を一杯飲みたいという気持ちも強く、できれば人知れず抜けてしまおうと、2 回ほど続けて合唱をお休みしたことがあった（加藤先生、これを読んでいたら、ごめんなさい！）。そうしたら当時の組合の重鎮の先生から、「荻野さんが来ない！！」と一喝されてしまった。それからは気持ちを新たに合唱を続けることになったのだが、今となっては合唱を続けていてよかったと思っている。私に喝を入れて下さった先生には感謝感謝である。

合唱団が始まってまだ 3 カ月くらいの頃、やはりその時も参加者は私と当時の書記の方ともう一人の組合の重鎮の先生の 3 名であった。その重鎮の先生は、合唱団発足の提唱者の一人ではあったが、ご自身は歌を歌うのがそれ程得意ではなかったようである。3 人以外には参加者がなかなか現れないので、そろそろ始めましょうということで、発声練習が始まった。すると、5 人いればお互いの声が全体に紛れるのだが、3 人となるとお互いの声ははっきり聞き取れ、その重鎮の先生の音程が著しく外れているのがどうしても耳に入ってきてしまった。

その先生には申し訳なかったが、私は笑いを堪えながら発声練習をしていた。そしてふと当時の書記さんの方を見ると、書記さんも笑いを堪えている様子であった。そして少しすると、私と書記さんの目が合ってしまった。すると、それまで必死に堪えていた笑いが一気に噴き出し、私が大笑いしてしまった。すると書記さんは、「荻野先生、だめですよ、笑ったら！！」と言いながら、今にも噴き出しそうな様子である。それを見て、私がより一層大笑いをしてしまい、発声練習が一時中止になってしまった。その後、加藤先生は、その古参の先生に対して、発声練習の個別指導をされ



たと思うが、あの大笑いは今となっては懐かしい思い出である。ちなみに、その重鎮の先生は、数年後には人前でソロで歌を披露するほど上達された。その先生も相当努力をされたと思うが、加藤先生の指導力は恐るべしである。

その後しばらくして、活動が落ち着いてくると、合唱団は合唱そのものも楽しかったが、合唱が終わった後に、音楽棟の前で20分ほどたわいもない話をするのも楽しみの一つになった。今もあるのかどうか分からないが、音楽棟の前には枇杷の木が一本あった。春のある日、枇杷の木に実がなっていた。「食べてもいいののかなあ?」と言いながら、みんなで二つ三つポリポリと頂いたのを覚えている。ちょうどその頃は、任期制や年俸制(当時は岡山大学の全教員に任期制と年俸制が適用されると噂されていた)、そして自己評価(今という教員活動評価)が導入されたかされようとしていた時期で、普段は教育研究で頭ががんじがらめになっていたのだが、合唱と合唱後の合計2時間くらいの間だけ、いつもとは違ったリラックスした時間を過ごすことができたのは、今から思えば本当に貴重な時間であった。



#### 【村上賢治先生との思い出】

合唱が始まって2年くらいした頃、農学部の上賢治先生(現在、石川県立大学教授)が参加された。年齢が近いということもあって、話が合い、合唱の練習の後、二人でよく食事をした。まだ若かった(?)こともあり、よく「えびめしや」で脂っぽいえびめしやハンバーグを食べた。そして、さらに時間に余裕がある時は「ぼんぽこ」という岡山インターチェンジのそばにあったカラオケ店に行った。あるいは、合唱の後そのまま夕食がてら「ぼんぽこ」に行くこともあった。

村上先生も歌が好きで、心のこもった歌い方をされた。カラオケでは、しばしば合唱で習った歌をふたりで復習したのだが、その時は「ふるさと」のハモリを練習していた。どちらが上でどちらが下だったかは忘れてしまったが、ふたりで歌っていると、気づいたら、注文の品を持ってきてくれた店員さんが、ドアのところで立って涙を流しているではないか。話を聞いてみると、彼は大学生で、親元を離れて一人暮らししているのだが、怪我をしてしまって一人弱気になっていたところに、私たちの歌を聞いて、ふと故郷が恋しくなってしまった、ということであった。しかし、私たちの歌を聞き、私たちと少し話しをすることができて、気持ちを新たにまた頑張って生きていきたい、と言って去っていった。「ふるさと」の歌詞の力に驚くと同時に、私たちのような未熟な歌い方でも、聴く人の心を感動させることができるかと、さらに驚いたのをまだ覚えている。やはり加藤先

生の指導力は恐るべしである。

村上先生とは、その後もカラオケへ行ったり、温泉に行ったりした。今は石川県におられるので、コロナが落ち着いたら石川県を訪ねて、またふたりでカラオケに行ってみたい。



#### 【不思議な話の思い出】

合唱団は、前述のように、創成期から数年間は、当時教育学部におられた奥忍先生のご尽力で、教育学部の音楽棟の講堂みたいなところを使用させていただいた。そこでもいろいろな思い出がある。合唱団が発足して数年すると、合唱に関心のある人が参加し、少しずつメンバーが増えていった。私自身も何となく合唱が楽しく、金曜日に来るのが待ち遠しくなっていた。

そんなある日、あるメンバーが練習に遅れて参加した。その方は、靈感が強いみたいなのだが、講堂に入ろうとしたところ、入り口の上の方で、日本兵の姿が4名、私たちの合唱を静かに聞いてくださっていた、ということであった。

知っておられる方も多いと思うが、第2次世界大戦中、現在岡山大学のあるところは、練兵場や軍事工場があった。確か、今の教育学部の辺りでは爆弾などの兵器が作られ、そこから線路で法界院駅まで運ばれたということである。余談であるが、爆弾が本当に爆発するかどうかの実験が、今の野球場や文法経の建物西側の駐車場の辺りや旭川で行われたと聞いている。

もう15年も前の話であるが、もし先の靈感の強い方が本当に日本兵の姿を見たのであれば、おそらく第2次大戦中に今の岡山大学の敷地内で命を落とした日本兵がおられ、その方々の御霊(みたま)が私たちの歌を聞いてくださっていたのであろう。私たちの歌声がその方々の御霊の慰めとなったのなら嬉しいと思う一方、その御霊が今では成仏して天に召されていてほしい、とも思っている。あるいはもし天に召されていないのであれば、これからも岡山大学の学生たちを温かく見守っていてくださればありがたいと思っている。

合唱団のことを書き始めたら、皆で吉備中央町の自然薯祭りに行ったこと、加藤先生のコンサートに行ったこと、100名くらいの聴衆を前に合唱を披露したこと等、あれもこれとも思い出すことが多く、20年の歴史の長さを感じました。今は、岡山市立北公民館で練習をしています。今と昔では、多少雰囲気も違っているかもしれませんが、駄文を読んで興味を持たれた方はどうぞご参加ください。

今年も皆さんにとって良い一年となりますように。

**次期学長的那須理事に「次期学長に望むことアンケートまとめ」をお渡ししました。**

岡山大学職員組合では「次期学長に望むことアンケート」を11月7日から12月5日までWebで実施し、回答数は210件でした。ご協力ありがとうございました。

12月22日、高岡副委員長より次期学長的那須理事にまとめをお渡し、内容の説明を行いました。那須理事は、その場で、じっくりと丁寧に読んでくださいました。

アンケートの最終結果簡易版は、266号に掲載いたしましたが、まとめをご覧になりたい方は組合ホームページに掲載しておりますのでご参照ください。

[https://library.odunion.jp/report\\_20221220.pdf](https://library.odunion.jp/report_20221220.pdf)

**「意向調査2位の方が学長になるのはいいのですか？」****～ 国立大学における学長選考方法の現状 ～**

岡山大学の次期学長選考が行われ、意向調査では2位であった那須保友氏が次期学長適任者に選考されました。これについて、「意向調査2位の方が学長になるのはいいのですか？」との質問をいただきましたので、状況を解説します。

**法人化以前は学長は教員の選挙で選ばれていた**

2004年度の国立大学法人化以前、国立大学が国の機関だった頃、国立大学の学長は教員の選挙で選ばれていました。これは学問の自由、大学の自治の精神に基づき、自分たちのリーダーは自分たちで選ぶ、ということの象徴です。当時は国立大学の教職員はみな公務員で、学長は教学のトップという位置付けでした。いわゆる「経営」を学長は担ってはいませんでした。

2004年度に国立大学法人となり、国立大学は独立した法人となりました。その際、国立大学法人法において学長の選考については学長選考会議が行うことと定められました。つまりそれまでの選挙という方法ではなく、学長選考会議の中で選考を行うということが法律で定められたのです。学長選考会議のメンバーは半分が学外のメンバーであることも定められ、少なくとも半数は実質的に現学長が指名可能でした。

学長選考会議が最終的な責任を負って学長を選考することになっても、学長選挙が禁止されたわけではありません。法人化が行われた初期は、多くの大学で学長の意向投票を実施し、学長選考会議はその結果を参考にして投票で一位であった候補を学長に選考するということが実際には

行われていました。学長候補は多くの場合業績的にも人望的にも拮抗しており、その中の誰か一人を選ぶ決め手はなかなかありません。結局のところ意向投票の結果というのは、誰にでもわかりやすい選考基準なのです。

ただ意向投票の結果がそのまま学長選考に直結するわけではなく、意向投票の結果をうけて学長選考会議が審議をして決める、というプロセスにはなっていました。その意味で、「意向投票」ではなく学内の「意向調査」であるという理由で、法人化の際に岡山大学では「投票」という言葉を使わず「意向調査」という名前に変更されました（他大学では今でも「投票」という言葉を使っているところもあります）。そして岡山大学では2004年の学長選考において、意向調査2位であった千葉氏が学長に選考されました。この当時は意向調査（意向投票）2位の候補が学長として選考されること珍しいことでした。

**2014年、文科省から「意向投票によらないようにすること」と通知された**

多くの大学で学長選考会議が意向投票（意向調査）の結果1位であった候補を学長に選考していたことに対し、国は、2014年の「学校教育法及び国立大学法人法の一部を改正する法律及び学校教育法施行規則及び国立大学法人法施行規則の一部を改正する省令について（通知）」<sup>1</sup>の中で以下のように通知しています。「選考の過程で教職員による、いわゆる意向投票を行うことは禁止されるものではないが、その場合も、投票結果をその



まま学長等選考会議の選考結果に反映させるなど、過度に学内又は機構内の意見に偏るような選考方法は、学内又は機構内のほか社会の意見を学長又は機構長の選考に反映させる仕組みとして設けられた学長等選考会議の主体的な選考という観点からは適切でない」。つまり国は意向投票の結果に従うことのみならず、意向投票の実施そのものに後ろ向きな態度を示しました。これ以降、意向投票そのものを廃止する大学が増えました。全大教は文科省会見等で、文科省が意向投票を行うこと自体は否定していないことを確認してはいますが、この通知が国立大学の学長選考において意向投票の廃止を促進し、また意向投票を行った場合でも1位の候補者を学長としない状況を作り出したことは間違いないでしょう。つまり、意向投票（意向調査）1位の候補者が学長にならないという状況は国によって作られてきたものです。2021年1月20日の毎日新聞によると、国立大学で学長の意向投票を廃止した大学は2割、2004年以降に行われた意向投票において投票結果を覆した例が1割に達するとのことでした。これが現在の状況です。

このように国は学長選考会議による学長選考を進めてきたわけですが、学長選考会議自体も学長の意向が強く反映されるような状況で学長に権限を集中してきたことの弊害がめだってきました。学長による大学の私物化がみられるようになってきたのです。これに対し、国は2021年に国立大学法人法を改正し、学長選考会議を学長選考・監察会議とあらため、就任後の学長を監察する権限を学長選考・監察会議に与えました。しかし、学長選考プロセス自体は変わっていませんし、学長選考・監察会議のメンバーの選出方法も基本的には変わっていません。

## 岡山大学の状況

岡山大学は学長選考において意向調査を実施しています。ただ、その結果がどのように学長選考に活かされているのかは不明です。前述したように2004年の学長選考では意向調査2位だった千葉氏が学長となりました。その次の2010年の学長選考では、意向調査1位の森田氏が学長になりましたが、その次の2016年の学長選考で現在の槇野学長が選ばれたときには意向調査の結果そのものが公表されず、組合は再三公表するよう求めましたが結局公表されませんでした（組合だより208号、209号参照）。そして今年度2022年に行われた学長選考では、意向調査2位的那須氏が次期学長適任者となりました。

これらの経緯から考えて、「意向調査2位の方が学長になるのはいいのですか？」という問いに対しては、現状ではそれは容認されている、と言わざるを得ないです。しかし、現状のままで良いと考えているという意味ではありませんし、少なくとも現状の仕組みの中であっても、学長選考・監察会議は意向調査の結果を尊重し、意向調査結果と異なる候補を学長適任者とするならば、その理由を詳細に明確に公表する必要があると考えます。

岡山大学職員組合が加盟している全大教は、学長は教員による選挙で選出すべきであるという立場を明らかにしています。大学が自由に活発にイノベティブな研究を行うためには、大学に民主的な土壌があることが必要だと考えます。学長選考においても民主的な方法で選出されることが望ましいと考えます。

（副委員長 笹倉万里子）

<sup>1</sup> [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/nc/\\_icsFiles/afieldfile/2014/09/10/1351814\\_7.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/_icsFiles/afieldfile/2014/09/10/1351814_7.pdf)

<sup>2</sup> <https://mainichi.jp/articles/20210106/k00/00m/040/181000c>

## 全大教単組代表者会議報告



10月29日（土）13時～17時に、オンラインで全大教北海道・中四国合同地区別単組代表者会議が開催されました。コロナ禍前のオフラインでの合同地区別単組代表者会議では、中四国地区は九州地区との合同開催でしたが、地理的な制約のないオンラインでの会議ということで、初の試みとして普段と異なる地区同士での合同開催となりました。16単組の参加があり、地区協議会と全大教中執を含めて33名の参加がありました。い

つもと違う大学との交流が持たれ、とても刺激になる会議でした。

岡山大学職員組合からは主に学長選考に関する取り組みについて報告しました。また、大学統合について情報を求めたところ、北海道大学機構に統合された北見工業大学の教職員組合から、「教員はそれほどでもないが、事務職員の仕事量はかなり増えている」との報告がありました。

北海道大学教職員組合は、スケジュール調整サ

ービスの伝助を使ったオンラインアンケートを  
予め準備して、会議中に各単組代表者がそれ  
に回答し、その結果を基に交流を行いました。ア  
ンケートの内容は、在宅勤務の実施状況と過半数  
代表選挙に関するもので、意外と異なる各大学で  
の状況を一覧しながら議論を進め  
ることができました。



今回の会議で特に興味深かったのは、共通テ  
スト手当てに関する情報で、北海道大学では共通テ  
ストだけでなく全ての入試について入試手当て  
がでているとのことでした。これについては是非、  
今後の岡山大学職員組合の取り組みの参考にし  
たいと考えています。

(書記長 藤原貴生)

※参考 国立大学法人北海道大学職員給与規程 別表第16(入試手当て関係)

[https://www.hokudai.ac.jp/jimuk/reiki/reiki\\_honbun/u010RG00000455.html#e000022932](https://www.hokudai.ac.jp/jimuk/reiki/reiki_honbun/u010RG00000455.html#e000022932)

## 【声明】「日本学術会議の在り方についての方針」に対する声明

2022年12月23日

全国大学高専教職員組合中央執行委員会

この度、内閣府は「日本学術会議の在り方についての方針」(12月6日)を公表し、この方針を  
ふまえた「日本学術会議の在り方について(具体化検討案)」(12月21日)を示しました。私たち  
は、学術の発展を担う大学教職員の組合として、この政府方針および具体化検討案に対して意見を  
述べ、見直しを求めます。

12月6日付の政府方針は、日本学術会議からの意見聴取などを経ずに、一方的に出されたもので  
す。まず、そうした決定プロセスに問題があります。

政府方針および具体化検討案の内容に関して、特に問題の大きい点を三つ挙げます。すなわち、  
「政府等と問題意識や時間軸等を共有」、会員等の選考・任命について「会員等以外による推薦など  
の第三者の参画」「内閣総理大臣による任命が適正かつ円滑に行われるよう必要な措置を講じる」な  
どとされている点です。これらの内容は、学問の自由を保障する憲法に抵触するものと考えます。

憲法第23条で定められている学問の自由とは、個々の研究者が自由に研究することを保障する  
に留まるものではなく、学術界全体が専門家集団として固有の価値観と規律によって自主的、自治  
的、かつ自律的に運営されることを含みます。これは、政府等の方針に学術界が従属させられ、そ  
の結果として破局的な戦争に突き進んだことへの反省から設けられた条文です。

こうした学問の自由の理念に照らすと、政府が学術界に対して「政府等と問題意識や時間軸等を  
共有」を求めることには大きな問題があります。学術界は固有の問題意識と時間軸によって展開  
するものであり、それによって中立的、客観的な視点からの知見の創造を行うものだからです。

次に、会員等の選考・任命に第三者を参画させることも同様に大きな問題を含んでいます。現行  
の推薦方式は、諸外国の同様の機関におけるスタンダードな方式です。報道によりますと、「第三者」  
として具体的には経済界の関与が想定されているとのこと。これは会員の選出に学術界の判断  
とは別個の判断基準を持ち込むことであり、学問の自由に対する侵犯と言わざるを得ません。さら  
には、諸外国から日本の学術界の中立性、客観性を疑われることになりかねません。

三つ目の「内閣総理大臣による任命が適正かつ円滑に行われるよう必要な措置」を求めることは、  
学術界に対して政権におもねることを求めることも受け取られかねず、これも学問の自由に対す  
る侵犯となります。政府方針では「高い透明性の下で厳格な選考プロセスが運用されるよう改革を  
進める」ともされていますが、2020年9月のいわゆる「日本学術会議会員の任命拒否」に対して、  
政府はそのプロセスなどを全く明らかにしておりません。透明性を欠いており、改革が必要なのは  
政府側ではないかと思われます。

以上のことに鑑みて、政府方針および具体化検討案は大きな問題を含むものであり、全面的な見  
直しを求めます。今後の議論にあたっては、政府の一方的な案によるのではなく、日本学術会議、  
そしてひろく学術界・国民との対話にもとづくようあわせて求めます。

学術界の使命は、日本ただ一国の国力向上ではなく、人類文化全体の発展に貢献する真理の探究  
です。私たちは、真理の探究を支える学問の自由の保障こそが、科学技術の発展をもたらすと確信  
しています。

## 単組だより 理学部単組より

理学部単組においても、ここ数年間はコロナ禍のため組合員間での意見交換や交流の機会が制限されています。授業などは対面が戻ってきましたが、冬に向かったの再流行がニュースでも取り上げられ、2022年末の対面での交流会(忘年会)は残念ながら難しいと判断しました。

理学部単組の特徴の1つは、理学部に軸足を置きながら全学の機構などに参加する教員が多いことです。様々な情報交換ができる機会は組合活動を魅力的とする大きな柱でもあります。



そこで、今年はオンライン形式による交流会を12月20日に実施しました。飲み物等を執行部で準備し参加者に配ることも検討しましたが、当日参加できない組合員もいることから、クオカードを全員に配り、各自で好みの飲食物などを購入する形式としました。自宅や出張先からでも参加できたことなど、オンライン開催ならではの利点もありました。

今後の教養教育科目のあり方、年々減少している運営費交付金や学生経費のあり方、スペースチャージや光熱水料の分担方法など、日頃の疑問点などを共有し、考える機会となりました。春までに感染症の流行も収まれば、桜花の下で新しい組合員も迎えての交流会を開きたいと決意を共有して閉会となりました。



## 法文経単組より

法文経職員組合は、岡山大学文学部・法学部・経済学部・社会文化科学研究学域・法務研究科および文明動態学研究所の職員であって、本組合の趣旨に賛同し、みずから本組合に加入することを選択した者をもって構成しています。執行委員会は、概ね毎月1回開催しています。執行委員会の構成は執行委員長1名、書記長1名、執行委員3名となっています。また監査委員2名、選挙管理委員2名も置かれています。法文経職員組合では、組合員の部局を超えた交流による連帯感の形成が重要な活動と考えているところです。

職場改善の活動としましては、連合体を通じての団体交渉のために、各部局所属の組合員から意見や要望などを募り、連合体執行委員会へお伝えをしています。

組合員の親睦活動としては、夏のビール大会、新年の職場懇談会、文化教養講座を開催しています。またこれらの活動を通じて、新規組合員の加入も意図しています。

## 教育学部単組より

### 令和4年度教育学部組合レクレーション

11月12日(土)久しぶりにレクレーションを開催しました。係の村井良介先生のご提案で、旧西国街道を歩きながら、目的地は天守閣の大規模改修工事が終わり新装オープンした岡山城を目指すという企画です。

特別支援教育の大竹喜久先生、理科教育で退職された加藤内蔵進先生、委員長の齊藤が参加し、岡山駅西口で待ち合わせ、まずNHK岡山放送局ビルにあるデジタルミュージアムで記念開催されている池田家文庫絵図展「岡山城と人々の暮らし」を観覧しました。とても興味深く皆さん熱心に時間をかけて時代ごとの変遷を理解し、古地図と現在のGoogleマップが配布され、東口に出て比較しながら西国街道を歩き始めました。線路沿い駐輪場の西口との地下連絡通路入口にある碑が、城下町を区切る最大の門があったことが書かれており、岩田町や野田屋町の現在の細い道路が西国街道だったと知り、いつも通っている道が改めて歴史と重なり驚きと不思議な感覚の体験でした。

桃太郎大通を横断し、お城に向かい当時のまま残る西丸西手櫓、石山門跡、月見櫓など、宇喜多家から池田家へと受け継がれる史跡も興味深く、最後に新ミュージアムとして改装された城に入り、ここから自由に天守閣などを見学し解散しました。コロナ禍の行動制限が撤廃されたとは言え、まだ参加者も少なかったのですが、このような貴重な体験ができる組合レクがこれからも継続でき徐々に拡大していけると素晴らしいなと思いました。





## ローカル線で行く フーテン旅日記

### 第93回 日本一急な坂を上るケーブルカー！ 高尾山ケーブルカー

工学部職員組合 大西孝

天狗と言えば関西では京都の鞍馬が有名ですが、関東では高尾山です。この高尾山に登るケーブルカーには、日本のケーブルカーで最も急な勾配（こうばい）、すなわち坂があります。今回は、そのケーブルカーに乗り、高尾山を歩いてみたいと思います。

新宿から京王電車に乗ると1時間弱で高尾山駅に着きます。ここから歩いて5分もかからずに、高尾山ケーブルカーの清滝駅へ行くことができます。筆者が訪れたのは午前8時前ですが、すでに乗客は多く、車内には立っている人もいます。都心から手軽に来られる場所だけあって週末はハイカーで賑わい、特に新緑や紅葉の季節は大混雑でケーブルカー、あるいは並行するリフトに乗るために長時間待つこともあるようです。黄色い車体のケーブルカーは、発車するとしばらくは緑の木々の間の緩い坂を登っていきます。この勾配が緩い区間では、進行方向に対してやや前のめりになるように立っていますが、だんだんと坂がきつくなってくると、ほぼまっすぐに立つようになり、勾配の変化を、身をもって感じるができます。途中の行き違い場所で、下りのケーブルカーとすれ違うと、ますます勾配がきつくなり、「手すりにおつかまり下さい」という車内放送が流れ、少し足を踏ん張ります。橋を渡って、前方にトンネルが見えると、線路の右脇に608/1000（31度18分）という白い標識が見えます。これは1000m



途中の行き違い場所を走る高尾山ケーブルカー。山上側には急勾配の線路が切り立って見えます。



日本のケーブルカーで最も急な勾配の区間。線路の右脇に608/1000（31度18分）と書かれた標識が見えます。

進むと608m登る勾配という意味で、30度を超える傾きの線路は、特に下りのケーブルカーから前方を眺めると、坂を転げ落ちそうな感覚になりますが、丈夫なロープで引っ張り上げてくれるケーブルカーなので、急な坂でもスリップする心配はなく、グイグイと登っていきます。短いトンネルを抜けると、そこは終点の高尾山駅で、駅のホームの部分は勾配が緩くなっています。約1kmのケーブルカーで、270mの標高差を6分かけて登ってきました。

ここから高尾山薬王院まで、登山道を歩いていきます。登山道といってもそれほど急な坂は無く、比較的緩やかな坂が続きます。途中には樹齢450年という大杉もあり、うっそうとした林の中、さわやかな空気を浴びながらの散策を楽しむことができます。ケーブルカーの駅から20分ほどで、高尾山薬王院に着きます。このお寺は、同寺のホームページによると744年に行基によって開かれたとされており、天平時代からの長い歴史を誇ります。霊山として古くから修験道の地として知られ、天狗信仰の場としても有名です。境内に入ると、あちこちに天狗の像があり、本堂や、さらにその上にある権現堂の左右にも天狗の姿が見られます。

再びケーブルカーで山を下り、新宿行きの電車に乗ります。朝から歩いてお腹が減ったので、高幡不動（たかはたふどう）駅で電車から降り、構内にある立ち食いそば屋「高幡そば」へ入りました。ここの名物は「鳥中華」というもので、これは蕎麦のダシにラーメンを入れた何とも不思議な料理です。山で汗をかいいた後は、「冷たい鳥中華」がお勧めです。冷たくツルっとしたのど越しのラーメンが、和風のダシと不思議とマッチします。



高尾山薬王院の権現堂。権現堂の前には天狗像があり、当地の天狗信仰が厚いことを実感します。



下山後に、京王線の高幡不動駅で「冷たい鳥中華」を満喫。和風のダシとラーメンが良く合います。

## 野菜三昧 一ネギ編一

農学部職員組合 安場健一郎

冬の味覚という鍋ものですが、色々な種類の鍋に入れるおなじみの野菜といえばネギですね。火にかけた鍋の中で煮汁を吸ったネギを他の野菜や豆腐なんかと一緒に食べますと、体も心もあったまりますね。

### 色々なネギ

今、販売されている主流のネギは白ネギ（長ネギ）です。日本で栽培される主な品種群として、千住群、加賀郡、九条群がありますが、そのうち前2つが白ネギに分類されます。スーパーに売っている白ネギは千住群に近い品種です。JR常磐線に北千住や南千住という駅がありますが、千住は東京都足立区のあたりの地名で、千住群は関東地方でよく作られていました。加賀郡は千住群より寒い地方で栽培される品種群で下仁田ネギなどブランド化されているものが多い印象です。九条群は葉ネギ（青ネギ）で使用され、うどんやラーメンなどの薬味でおなじみですね。他にも、外側が赤ネギ（茨城県の名物）、葱坊主ができない櫛ネギ、岡山でよく作られるリーキ（日本のネギとは別の植物です）など、様々な品種が栽培されています。ちなみに、ネギの原産地は日本ではなく中国ではといわれています。

### ネギの栽培

青ネギの栽培は容易だと思います。ホームセンターで九条細や九条太といった品種のタネを買ってきて畑やプランターに播種して適宜肥料を与えれば栽培できます。これらの品種は少し長い間栽培すると分けつする（わき芽が伸びる）のでどんどん収穫できます。スーパーで買ってきた青ネギも下の方を植えておけば再生するので作ることが可能です。白ネギは栽培期間が長く、土寄せという作業が必要ですので畑がないと作るのが難しいでしょう。春に白ネギ用の種を買ってきて畑の一角に種をまいて苗づくりします。15～20cmになったら畑に移植するのですが、畑には溝を切ってそこに植える必要があります。植物が生長するにつれて溝に土を入れて埋めていって最終的には地面から15cmくらいまで土をもって栽培します。土がかぶっている部分が白くなるので土寄せ作業は必須ですので、土寄せ用の土のことも考えて広めのスペースが必要です。冬を越して春になると葱坊主ができますのでそれまでに収穫して食べてしまいましょう。とはいえ、冬の間はネギをたくさん消費しますので葱坊主を見ることがなく食べきってしまうのではないのでしょうか。

### 焼ネギのトマトナッツソース

ネギを使った料理は色々ありますが、薬味や脇役的なものが多くて何かないかなあと図書館で目に留まったのがスペイン料理本（カタルーニャ地方の家庭料理（著）丸山久美さん）の一品。葉タマネギで作るようですが白ネギでもOKとのこと早速試作してみました。焦げ臭さそうなので家族が帰省してる大みそかに盛大に作りました。ソースをレシピ通りに作るのは面倒なので少し（かなり）変えちゃってます。ナッツとトマトを合わせたソースで作りは色々あるようなので大筋では間違っていないと思います（かなり無責任）。煎ったアーモンドとヘーゼルナッツ、オリーブオイルで軽く炒めたニンニクと、刻んだトマト、パプリカパウダー、パン粉、塩コショウ、白ワインビネガーを入れてミキサーにかけてソースを作ります（ロメスコソース... だそうです）。白ネギはブドウの枝で表面が真っ黒になるまで焼くらしいので、隣の果樹研究室が実験で使っているブドウの樹の枝をこっそり忍び込んでむしり取って... と一瞬よぎりましたが、今後の大学での立ち位置も大事ですので、泣く泣く魚焼き用の網で焼きました。焼いた後は焦げた皮をむいてソースをつけてかぶりつきますが、中が蒸し焼きになってうまい！トマトのナッツソースがいい感じですよ。葉タマネギ（&ブドウの枝...）でも試してみたいなという一品です。

ネギはおいしい食べ方がいくらでもありますし身近な野菜です。冬の間、どんどん消費していただけると嬉しいです。



左から、白ネギ、九条ネギ、リーキ（西洋ネギ）。白ネギの栽培には土寄せが必要で、写真のものも土寄せして作ってます。九条は一つの個体から分けつしてたくさんネギができます。リーキは西洋ネギで別名ポロネギといい日本のネギとは違う植物です。



焼いたネギをトマトナッツのソースにつけて食べました。2022年の料理納めになりました。